

第2部 宇都宮市における駐輪政策 ～宮っ子自転車おかたづけ大作戦～

<担当> 金田朋子 倉島智代

第1章 はじめに

第1節 問題意識

宇都宮市の中心市街地は、オリオン通り商店街やパルコ、東武が立ち並び、高校生から主婦、高齢者など幅広い年代が訪れ、買い物などを楽しむ宇都宮市の繁華街のひとつである。その中心市街地への主な交通手段として、自転車が挙げられる。

中心市街地は、以前から自転車の交通マナーが問題視され、また路上駐輪が多い。それは、歩行者の通行の妨げとなって危険である。また、整備もされず、乱雑に停められているため、通りの景観を損ねている。そのことから、中心市街地における駐輪マナーについて検討する。

第2節 目標

まず、路上駐輪をしてしまう背景や要因を探り、そのことから宇都宮市の中心市街地において路上駐輪をなくし、景観の向上を図ると共に市民にとっての憩いの場を提供することを目標に提案をしたい。

第2章 現状分析

第1節 市営駐輪場の利用状況

オリオン通りを中心とした中心市街地には、中央小北、中央1丁目、東武東の3ヶ所の市営駐輪場がある。

- ・ 駅周辺の駐輪場 利用率が高い
- ・ 中心市街地の駐輪場 利用率が低い

第2節 フィールドワーク

自転車の路上駐輪の現状を把握するために、中心市街地、特にオリオン通りを中心にフィールドワークを行った。また、市営駐輪場の使用状況なども見てきた。

オリオン通り

- ・ 通りの中央に路上駐輪がされている・・・道幅が狭くなり危険
 ↑ ゲームセンター・八百屋の前に多い
- ・ カラーコーン、警備員の配置・・・店側でも路上駐輪の対策

市営駐輪場

- ・中央小北駐輪場・・・5分の1程度の利用
- ・中央1丁目駐輪場・・・ほとんど利用されていない
- ・東武東駐輪場・・・他の2ヶ所に比べ、利用している人が多い

⇒ どの駐輪場も非常に利用率が悪い

看板

- ・駐輪場の場所を示す看板・・・どこにあるのかわかりにくい
看板のまわりに自転車が止められている

⇒ 看板の意味をなしていない

- ・自転車放置禁止区域であることを示す看板
・・・市営駐輪場の場所の明記がわかりにくい

⇒ これでは路上駐輪の抑止につながらない

第3節 アンケート

宇都宮大学の学生130人を対象に『中心市街地への交通手段』『オリオン通りでの駐輪場所』等のアンケート調査を行った。

アンケートの結果

- ・中心市街地への交通手段として大多数の学生が自転車を利用している
- ・自転車利用者の多くが路上駐輪している
- ・駐輪場の認知度が低いために、駐輪場の利用率が低い

↳ 認知度を上げることが駐輪場の使用率を上げることにつながる

第4節 宇都宮市の取り組み

短時間専用駐輪施設

オリオン通り内に数ヶ所、わき道などに短時間専用駐輪施設として、利用客が目的地の近くに止められるように駐輪できるスペースを設けている。

フラワーポット

歩道にフラワーポットを設置することによって、路上駐輪の数が激減している。フラワーポットは環境にも良く、景観の上でもきれいなまちづくりができています。

シルバー人材派遣

シルバー人材派遣の方々による駐輪指導、駐輪整備も路上駐輪対策の一つとして挙げられる。宇都宮パルコ前などでは自転車が乱雑に止められ危険な状態だが、彼らのおかげできちんと整備され歩きやすい状態になっている。

高校生の呼びかけ

高校生がオリオン通りで交通マナーの呼びかけを行っている。宇都宮市の高校では「交通マナーを考える会」を作り、各学校から何名か選出し、彼らは月に何度か

オリオン通りの数ヶ所で看板を持ち、呼びかけを行っている。

第5節 他市の取り組み

広島県広島市

駐輪場の利用を促進するため、買い物駐輪券の配布を約1ヶ月間、試験的に行った。買い物駐輪券を参加店舗に提示すると、買い物代金から駐輪場利用料100円が値引きされるというものである。

大阪府大阪市

駐輪場対策として小学校などを利用して330台分の仮設駐輪場を設置し、同時に自転車利用者にボランティアの人々が駐輪場利用の呼びかけや誘導を実施した。その結果、実験実施区間では路上駐輪が約6分の1にまで減少し、大きな抑止効果がみられた。

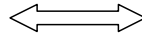
東京都千代田区

放置自転車対策の一環として、地元団体が、人々のモラルに訴え、心理的圧迫をかける方法を探り、歩道のガードレール下にフラワーポットを設置した。その結果、フラワーポット設置地域における放置自転車はなくなった。

第3章 提案

第1節 オリオン通りの整備

路上駐輪が非常に多い



通りの幅が広いために、
中心部分に自転車を置いても
充分人が通れるスペースがあるから

→ オリオン通りの中心部分にフラワーポットとベンチを一定間隔で交互に設置
それぞれの間には、人が通りを横断するのに充分で、しかし自転車を停めるには不十分といえる、1メートルほどの間隔をあけることが重要だ。

効果

自転車の路上駐輪の防止、オリオン通りを利用する人々の休憩などの憩いの場の提供、またオリオン通りの景観を美しく保ち、訪れる人々に明るい印象を与えることが期待できる。

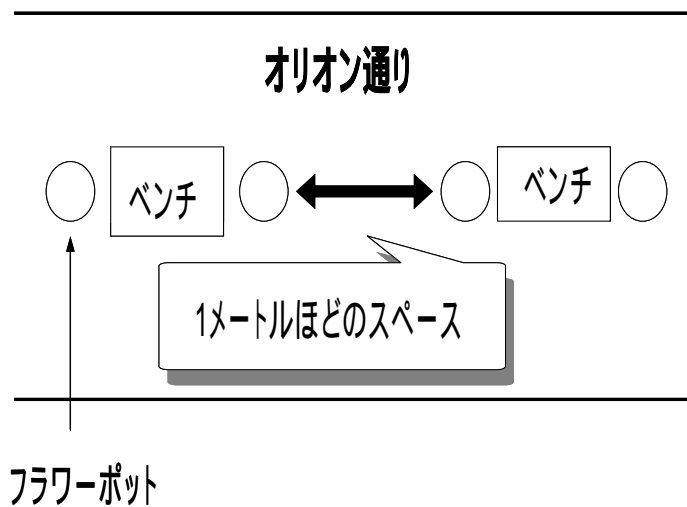


図1：オリオン通りの対策施行後のイメージ図

第2節 看板の整備

駐輪場の所在や駐輪禁止区域について明確に知らせるための取り組みが必要

- ➡ 駐輪場の場所を示す看板を、簡潔で、大きく見やすいものにする
- ・設置場所をより多くの人が目にする場所におく
- ・禁止区域を示す看板に、代わりに駐輪することのできる場所や駐輪場の位置を明確に告げる

効果

禁止区域への駐輪を抑止すると同時に、適切な場所への駐輪を促す効果も得られる。

第3節 “宮っ子買い物駐輪券”の発布

利用率の低い市営駐輪場の利用率向上を図るため

- ➡ 買い物駐輪券を発布

この駐輪券の名前については宇都宮にちなんで「宮っ子買い物駐輪券」と命名する。これは市営駐輪場を一度利用するごとに買い物駐輪券が渡され、オリオン通り商店街の加盟店舗で買い物をしたときにそれを提示すると、100円オフになるというものである。

効果

駐輪場の利用を促すだけでなく、商店街での買い物を促進し、オリオン通り全体が潤うことが期待出来る。

第4節 キャンペーンの実施

市営駐輪場へ駐輪を促し、“宮っ子買い物駐輪券”を市民の方々に広く知らせるため

⇨オリオン通りの整備後、キャンペーンを行う

オリオン通り内、特にオリオン市民広場などでチラシ配布や呼びかけを行い、それと同時に、「宮っ子買い物駐輪券」の発布についても大々的にアピールする。

第5節 課題

提案を受けて考えられる問題として、まず浮かび上がるのが「宮っ子買い物駐輪券」のお金の負担をどうするかである。さらに、オリオン通りの真ん中にベンチとフラワーポットを設置するという案については、これらの設置までは宇都宮市の方々に任せると考える。ベンチに関しては、本来、幅広く多くの人に休息の場所として利用される場が、学生のたまり場となり、他の人々が利用しにくいということが懸念される。この施策事業には、何よりも商店街の意識の向上と市の取り組みに対する協力が不可欠である。

< 参照 >

第 1 部 参考文献

- ・小倉宗治・小林成基・石田久雄共著（2005 年 リサイクル文化社）
「自転車市民権宣言～都市交通の新たなステージへ」
- ・疋田智（Bicycle Club 2005 年 10 月号 えい出版社）
「道路は誰のものですか？」

参照ホームページ

- ・国土交通省道路局（<http://www.mlit.go.jp/road/road/bicycle/index.html>）
- ・NPO 法人自転車活用推進研究会（<http://www.cyclists.jp/>）

データ出典

NPO 法人自転車活用推進研究会 2006 年調べ

第 2 部 参考文献

- ・宇都宮市役所インタビュー(06.10.11)
建設部道路維持課 管理調整グループ 主事 鈴木祐介氏
- ・宇都宮市役所 資料
(有料自転車駐輪場利用状況、自転車等放置状況の推移、放置自転車の撤去及び
処分等状況)
- ・海星高校インタビュー(06.10.30). 佐藤先生

参照ホームページ

- ・国土交通省道路局ホームページ（<http://www.mlit.go.jp/road/index.html>）
- ・宇都宮市役所ホームページ（<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>）